

＜認知症対応型共同生活介護用＞

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4677000129
法人名	社会福祉法人 三峰会
事業所名	グループホーム 回生園
訪問調査日	平成 21 年 7 月 21 日
評価確定日	平成 21 年 8 月 31 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

〔取り組みを期待したい項目〕

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

〔取り組みを期待したい内容〕

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年7月26日

【評価実施概要】

事業所番号	4677000129
法人名	社会福祉法人 三峰会
事業所名	グループホーム 回生園
所在地	鹿児島県曾於郡大崎町菱田家戸原3063番地 (電話) 099-477-2585

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成21年7月21日 評価確定日 平成21年8月31日

【情報提供票より】平成21年6月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 7 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 3 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	7.2 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り 1 階建ての 階 ~ 階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円(水道光熱費込)	その他の経費(月額)	実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		780 円

(4) 利用者の概要(6月2日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 90.7 歳	最低	83 歳	最高	103 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	草野クリニック・上床歯科医院
---------	----------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

同法人が運営する特別養護老人ホーム、デイサービス等がある敷地の一角にグループホーム回生園がある。広い敷地の庭は手入れが行き届き、季節毎に目を楽しませてくれる。ホールに入ると天井の大きな4本の梁が目に残り、どっしりと安心感を与えている。台所を中心に回廊式になっているため、利用者が居室やトイレへ移動するのも見守りやすくなっている。職員は、理念にある温かく、やさしくをモットーにケアにあたり、家族会も年4回行われ家族との繋がりを大切にしながら、認知症進行防止のための「くもん学習療法」を取り入れ、一人ひとりの笑顔が見れるような支援に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価では、地域密着型サービスとしての理念についての項目が改善課題として上げられたため、運営推進会議やホーム内研修で報告し話し合いがなされ、地域の一員としてという文言を付け加えると共に、職員の意識付けも行っている。事業所の理念については、重要事項説明書にも明記している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員に白紙の自己評価表を渡し、期間を設けて意見を記入してもらった後に、職員と話し合いまとめている。職員は、ケアに対する振り返りの機会と捉え取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は2ヶ月に1回、利用者、家族代表、民生委員、知見者、行政代表、法人代表などが参加して開催されている。事業所から現状報告、行事報告、研修報告をしながら、それぞれの立場での意見交換や情報交換を行っている。管理者は、今後、地域の方々を啓蒙し「認知症サポーター」を養成する講座を開きたいと考えている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>3ヶ月に1回行われる家族会、年1回のアンケート、運営推進会議など意見を表せる機会を持つと共に、玄関には意見箱、第三者苦情相談窓口を設置するなど家族の意見に耳を傾ける姿勢を持っている。また、家族の面会時や電話で受けた要望については、連絡簿を活用し職員全員で情報を共有し話し合いながら運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会の加入を希望し、今後も市町村の協力をもらい調整を続けていきたいと考えている。地域との交流は、法人と合同で行う夏祭りに地域の方々に来てもらったり、町の文化祭、小学校の運動会の見学にも行っている。また、地域の方が野菜を届けてくれたり、中学校の職場体験の受け入れなども行っている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年の評価での改善課題として上げられており、運営推進会議や職員会議で話し合い、地域密着型サービスとしての役割を再確認すると共に、「地域の一員」という文言を加え事業所独自の理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のホーム内研修時やミーティング等で理念についての意識付けを行い、サービス提供場面においても理念が実践されるように、言葉遣いなどの指導を行っている。認知症ケアの10ヶ条も一緒に掲げて共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町の文化祭や小学校の運動会の見学など、地域の行事に参加したり、法人と合同で主催する夏祭りで交流したりしている。時には地域の方が野菜を届けてくれたり、中学校の職場体験の受け入れも行っている。管理者は、自治会に加入し地域との情報交換をもっと行なっていきたいと考えている。	○	管理者は、自治会に加入し地域との情報交換をもっと行なっていきたいと希望しているので、市町村の協力をもらい、地域との交流が深まる事を期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員に白紙の評価表を渡し、期間を設けて意見を記入してもらった後に、管理者と職員で話し合いまとめています。職員は、ケアに対する振り返りの機会と捉え、サービスに活かせるように取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、利用者、家族代表、民生委員、法人関係者、行政担当者が参加して行なわれている。事業所の現状報告や行事報告、研修報告など細やかな報告を行い、それぞれの立場での意見交換や情報交換を行い、サービスに繋げられるように取り組んでいる。		

鹿児島県 グループホーム 回生園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	書類の提出、不明な点の確認、相談など、情報交換を行いながらサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	グループホーム回生園便りは、月に1回発行されている。便りは利用者個人ごとで、写真や日頃の様子、事業所の行事報告、行事予定など細やかに工夫された報告に家族から喜ばれている。金銭出納帳、預かり金明細書、領収書はコピーして送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヶ月に1回行われる家族会、年1回のアンケート、運営推進会議等で意見を表す機会を持つと共に、玄関には意見箱、第三者苦情相談窓口を設置するなど、家族の意見に耳を傾ける姿勢を持っている。家族の面会時や電話での要望は、連絡簿を活用し職員全員で情報を共有し話し合いながら運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、チームケアを中心に職員とのコミュニケーションを多く持ち、勤務調整にも配慮するなど離職を抑えるよう努めているため、異動や離職はなく利用者は馴染みの職員からの支援を受けている。法人内異動があった場合は、新人研修マニュアルで研修している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員が外部研修に平等に参加できるように配慮し、研修に参加した職員は、伝達講習を行なっている。法人全体とホーム内研修については、年間計画を立て必要な内容の研修を行い、職員の質の向上を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大隈地区グループホーム連絡協議会に参加し、勉強会には職員も交替で参加している。2ヶ所のグループホームとは、利用者を含めた交流を行なっている。他のホームの新人研修の受け入れも行ったことがある。	○	利用者を含めた同業者との交流だけでなく、職員の相互訪問などの機会を持つことで、事業所の課題の解決やお互いのサービスの向上に繋がる事を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前、家族が先に見学した後、本人にも来てもらい雰囲気を感じて納得してもらうようにしている。アセスメントも十分行ない、入居して慣れるまでは本人に合わせて、家族の面会を多くしたり、電話をかけてもらうなど家族に協力をお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に対して人生の先輩として尊敬の気持ちで接し、洗濯物干しやたたみ、ゴミ捨てなど、お手伝いの場面や餅つき、あくまき、ケセン団子作りなど教わる場面を持ちながら、感謝の言葉を伝え支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や本人から意向を直接確認すると共に、利用者一人ひとりに付いている担当職員を中心に、カンファレンスを行い、気づいた内容について話し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議には、本人、家族、担当職員、計画作成担当者、管理者が参加し、担当医師の照会書や理学療法士などの必要な関係者の意見を参考にしながら、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のホーム会議で担当職員を中心にモニタリングを行い、3ヶ月毎の見直しを行なっている。入院や状態変化があった場合には、家族と話し合いその都度見直し新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師2名が配置されており、医療行為を受けながら生活支援することができる。歯科往診、職員による通院介助、特別外出支援として墓参りなど、本人や家族の要望に応じて支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人が納得の上で、協力病院がかかりつけ医となっているが、他科についてはそれぞれが希望するかかりつけ医としている。病院受診は適切な医療が受けられるように、お互い情報交換を行い、家族にも電話で連絡し情報を共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に看取りは行なっていないことを家族に説明している。緊急時についてのマニュアルを作成し、対応について職員は共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、日常的に認知症ケアの10ヶ条の内容を確認し意識付けを行い、言葉遣いについても指導している。プライバシーについての勉強会も定期的に行なっている。個人情報利用同意書を作成し、家族の同意を得て写真等を取り扱っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを守り状態に応じて、起床時間を遅らせたり、部屋で食事をする方もいる。家族の希望で新聞のコラムを毎日ノートに書かれる方、エレトーンを弾かれる方、天気の良い日は散歩される方など、希望にそった支援をしている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、野菜の下ごしらえ、盛り付け、食器洗いとそれぞれの力量に応じて手伝っている。毎月15日は誕生日メニューが並び、利用者の希望が取り入れられている。誕生日には、職員と一緒にケーキを作り楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後から入浴できるようになっている。順番は順番表を基本にしているが、利用者の状態や様子を見ながら対応している。異性の職員の介助を拒む利用者には、必ず同性の職員が対応し、ゆっくり安心して入浴できるように配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の年齢も高い方が多いが、出来る事をしてもらうように支援している。朝の掃除、ゴミ出し、新聞おり、洗濯物干しなどの役割を持ち、得意なエレクトーンの演奏や歌、陶芸などの楽しみ、ドライブやレクリエーションなど毎月計画して気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	リビングからウッドデッキに出られるようになっており、日光浴やお茶を楽しむことができる。天気の良い日は散歩、買い物など希望があればいつでも出かけられるように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていないが、チャイムセンサーで出入りを確認している。外出傾向の利用者は把握しており、出たがる時は職員と一緒に散歩してから戻ってくる。法人の敷地内なので、他施設の職員の協力を得ながら見守りをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の指導の下、併設施設と合同での避難訓練とホーム独自での防災訓練を行っている。訓練には地域の消防団にも参加してもらっている。自動消防通報装置も設置してある他、スプリンクラーも取り付ける予定になっている。	○	職員が自信を持って対応できるように、あらゆる場面を想定した自主訓練を、職員研修の中に取り入れるなど、工夫していかれることを希望します。

鹿児島県 グループホーム 回生園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量は毎日記録され、毎月体重測定を行なっている。法人の管理栄養士の管理の元、塩分控えて栄養バランスのとれた献立となっている。月1回の給食会議で事業所の要望を管理栄養士に伝え連携している。個々の状態に合わせた食事形態に対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングからウッドデッキに出られ、そのまま庭に降りれるようにスロープが造られている。庭には、色々な木が植えられ手入れされている。廊下も広く、所々にソファが置かれ、窓からやわらかい光が入り明るい。壁には、利用者と一緒に作ったひまわりのちぎり絵や七夕飾りが季節を感じさせている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には洗面台が備え付けられ、使い慣れたベット、ダンス、椅子、机、冷蔵庫、テレビなどが持ち込まれ、ぬいぐるみや時計、家族の写真など本人が安心できるものが置かれている。利用者の手作りの品を飾るなどして自分の居室がわかるように居心地よく過ごせる工夫をしている。		